

平成25年度「市長と語りあう会」について

1 出席者状況

開催日（曜日）	会場	時間	出席人数		
			男	女	計
5月29日（水）	真砂地区振興センター	19:00～20:38	17	3	20

○市側出席者

市長、総務部長、経営企画部長、秘書広報室長

2 会の概要

○開会（秘書広報室長）

- ・ 会の趣旨説明
- ・ 出席者紹介

○あいさつと市政運営の説明（山本市長）

(1) 平成25年度施政方針から基本指針について

① 人口拡大への挑戦

- ・ 全国の人口は2005年をピークに減少傾向にあること。
- ・ 人口の増減には社会増減と自然増減があり、社会増減策はU I ターン奨励と企業誘致、自然増減は子育て支援と、健康維持策に取り組む。さらに、これに加えて交流人口の拡大に取り組むこと。

② 財源の効率的配分

- ・ 益田市における歳入財源の最大なものが交付税であるが、合併算定替えにより、平成31年には現在より11億円減額される見通しであること。
- ・ 今後扶助費が漸増し、市債の償還も見込まれ財政を切り詰めなければならないこと。

③ ネットワークの構築と活用による産業の活性化

- ・ 市内部だけでなく、商工会議所等各種団体及び他の自治体、県、国との連携に努めること。
- ・ さらに、首都圏、関西圏の自治体との交流も進めていきたいこと。

(2) 現在取り組んでいる課題、今後取り組む課題

① 学校給食センター整備事業について

- ・ 現在の施設が衛生安全基準を満たしていないこと。
- ・ 学校給食センター整備にあたっては、食育、地産地消、食中毒等の危険分散、多面的な主体による給食の提案等の観点からこれまでの1箇所設置から複数設置にしたいこと。
- ・ 市議会での議決が得られていないが、出来るだけ早く議会との協調を図り、新調理場の早期建設に向けて努力したいと考えていること。

② 高津川ラインガルテン等整備事業について

- ・ 当初候補地(国営農地開発白上町内)での開設は採算面で厳しい状況にある上に、周辺の水質調査結果が飲料用に不適切であったこと。当初案の採算性及び予定地について再検討する必要があること。

③ 地域医療体制の充実について

- ・ 益田赤十字病院における産科医の体制の現状。平成25年3月に1人退職したが、島根大学の支援を受けていること。
- ・ 脳神経外科の状況。脳神経外科設置のためには、最低3人の医師チームが必要であること。また、救急医療に対処するためには5人の医師チームが必要であること。
- ・ 脳神経外科医の医療技術を維持するための症例数確保には、30万人の人口規模が必要であること。
- ・ 緊急事態の際に、脳神経外科等設置されている病院までの迅速な搬送ができるようヘリポートや道路網の整備に努めること。

④ 防災対策と危機管理体制について

- ・ 島根県西部地域では豪雨による災害が懸念されること。

- ・ 標高表示について、市道沿いにも標高表示をすること。今年度予算100万円
- ⑤ 空港の利用促進と道路整備について
 - ・ 現在の飛行時間帯では利用しにくいことから、萩・石見空港東京便2便化と大阪便の定期再開にむけて要望していること。今年度の利用者目標数値が、東京便70,000人、大阪便5,200人であること。
 - ・ 飛行機を利用した交流の対象として、川崎市や豊中市も想定していること。
 - ・ 三隅・益田道路の早期開通と、益田・萩間の早期事業化に努めること。
- ⑥ 都市間交流の推進について
 - ・ 川崎市、豊中市とは、少年のスポーツの交流を進めて来ていること。
 - ・ 高槻市、豊中市とは、防災協定を締結すること。
- ⑦ 企業誘致の推進について
 - ・ 人口拡大のためにも企業誘致を進めていきたいこと。

(2) 意見交換

質問項目は以下のとおり。詳細は、別紙のとおり。

- ① 下波田町の市営住宅について。
- ② 市道下波田馬谷線について－1。
- ③ 婚活支援事業について。
- ④ 子どもの学校教育の環境について。
- ⑤ 学校統廃合について。
- ⑥ 防災無線について。
- ⑦ 緊急時の伝達手段について。
- ⑧ 立林伐採後の山林の管理について。
- ⑨ 農地の無断転用について。
- ⑩ 地域資源を活用した交流施設の設置について。
- ⑪ 市道下波田馬谷線について－2。
- ⑫ 空き家、遊休農地について。
- ⑬ 集客施設の設置について。

○ 閉 会 （秘書広報室長）



平成25年度「市長と語りあう会」

〔会場 真砂地区振興センター〕 開催日時：平成25年5月29日（水）19:00～20:37

要 望 事 項 等	回 答
<p>① 下波田町の市営住宅について。 下波田町の市営住宅(5世帯用)は、老朽化している上に、入居者も2世帯の状況。 若者が入居しやすいように新しい住宅を建築して欲しい。</p> <p>② 市道下波田馬谷線について－1。 途中に峠がある。スムーズな交通が可能になるように改良工事をして欲しい。</p> <p>③ 婚活支援事業について。 人口拡大への挑戦は大賛成。男女ともに結婚していないあるいは晩婚の傾向が強い。「相手がいない」ことがその理由だと聞くが、市が出会いの機会を作るなど婚活支援事業に取り組んではいかがか。</p> <p>④ 子どもの学校教育の環境について。 今年2月に真砂の学校教育の状況を見て頂いたが、その後の動きが止まっているように思う。 安全安心な環境で子供たちが学べるような対策を取って欲しい。</p>	<p>① (私自身)現状を詳細に把握していない。持ち帰り担当課において検討する。 また、入居が進んでいない原因が、老朽化なのか勤務地から遠い等地理的要因なのかを明らかにした上で対策を考える。</p> <p>② ご指摘のとおり、険しい道だと思っている。市道の改良は要望が多く、要望が満たされている状況にはない。どの程度の優先順位かを把握すると共に、この会で意見が出たことも念頭に入れて検討する。</p> <p>③ 少子化の要因として、晩婚化や未婚率の高さがあると聞く。かつては地域に世話をする人もいたが、今は少ない。これまで行政がするものではなかったが、行政も何かしなければならぬと考える。市としてはその一つとして、昨年男女の出会いの場づくりのための料理教室を実施した。県もハッピーコーディネーターという名の世話人を設けている。 益田商工会議所、美濃商工会も独自で事業を行っているので、必要であればそれを支援していく。 行政が婚活事業に取り組むことで、信頼されるという長所はあるが、できれば民間の組織が取り組む事業を行政が応援するという方が良いと思う。</p> <p>④ 市は小中学校の設置責任がある。2月に現状を確認した。なんとかしなければならぬが、併せて学校再編の課題がある。学校再編と併行して進めなければ校舎の耐震補強も進めにくい。 学校再編について、地元は身を切られるさみしさがあり抵抗感があると思う。一方で、子供たちの教育環境はどうあるのがベストか、地元と教育委員会の協議が必要と思う。 また、現行の学校再編計画は平成26年度末までの計画であるが、そこまで延ばさずに結論を出すべきと考えている。 今年の2月以降市の方針を示していないのは申し訳ない。今、市に預けられた課題を次はお返しする番だと思っているのでそのように対処する。</p>

要 望 事 項 等	回 答
<p>⑤ 学校統廃合について。 教育委員会は、統廃合が前提で話をする。自分たちも子を持つ親の意見を聞いている。今、学童保育も取組まれていて喜ばれている。親の意見にも耳を傾け、早くはっきりして欲しい。</p>	<p>⑤ 教育委員会としても市としても他の地域とのバランスも考慮しなければならない。総配合した地域がその後後悔していないという状況も伝えていきたい。 学校再編の事があるので、現時点ではすぐに校舎の耐震補強を実施するという結論には至っていない。</p>
<p>⑥ 防災無線について。 昭和58年の豪雨災害の時に真砂地区は孤立し、アマチュア無線を使ってヘリコプターを要請した経過がある。 益田市においても、かつて防災用の無線機を公民館と自治会長宅に配置したが、このたび「それを使用しないから」ということで市に返還したが、その後の回答もなく職員の対応に不満を持っている。今後この無線機をどうしていくのか市の方針が明らかになっていない。使用しないのであれば、その旨徹底すべき。</p>	<p>⑥ 職員の対応はいかなものかと思う。人命は何をおいても優先すべきものなので、いったん持ち帰って対応する。</p>
<p>⑦ 緊急時の伝達手段について。 山間地では、隣も遠い。緊急時に即状況を伝えられるしくみが出来ないか。</p>	<p>⑦ 現在の告知端末は一方向のみの使用しか出来ない。 これを市全域双方向での情報伝達にすることは費用の面から難しい。そうした場合には、電話に頼るしかない。</p>
<p>⑧ 立林伐採後の山林の管理について。 立林の伐採後、現地の山林が無造作に放置されている事例があり、その後の(豪雨等の)災害が懸念される。</p>	<p>⑧ 立林伐採後の対策は研究して回答する。</p>
<p>⑨ 農地の無断転用について。 農地の無断転用が行われている現状があるがいかがか。</p>	<p>⑨ この問題は完全に違法行為である。農業委員会として対応が難しいのであれば、市に情報提供して欲しい。</p>
<p>⑩ 地域資源を活用した交流施設の設置について。 人口拡大は、大変大切なことだと思う。企業を誘致しても子供たちが帰ってこれるようになれば効果はない。 真砂は子供たちが住む環境としては非常に良い。例えば、美都には「みと自然の森」があり、県外者やリピーターが多い聞く。真砂にも地域外から人が呼べる施設を設置して頂きたい。</p>	<p>⑩ 地域の資源を活用して地域外の人を呼べるようにすることは大変大切なことと思う。 優れた事例を参考にして取組みたい。</p>

要 望 事 項 等	回 答
<p>⑪ 市道下波田馬谷線について－２． 市道下波田馬谷線の峠の道路そばに松くい虫被害の木があり危険。市で処理を願いたい。</p> <p>⑫ 空き家、遊休農地について。 真砂地区内にも、空き家や遊休農地が目立つがその対策を。</p> <p>⑬ 集客施設の設置について。 地区外の人を対象として、有機農業等の研修会をした後の宿泊施設、クライנגルテンを始めとした集客施設や野菜市の施設を設置して欲しい。</p>	<p>⑪ 持ち帰って対応を考える。</p> <p>⑫ 住宅は人が住まなくなると荒廃しやすく、人身被害が懸念される。 住宅は基本的には所有者が適切な管理をすべき。市が解体することも出来ないことはないが、そうすると逆に放置家屋が増えることになりかねない。 所有者の管理を基本にしつつも、地区内でも声を掛け合って頂けないか。 現在益田市としては、条例制定をまで取組んでいないが、制定自治体の状況を調査する。</p> <p>⑬ ご指摘の施設設置については、公が設置する場合と民が設置する場合がある。 民が設置する場合には事前に詳しい調査をしリスクも把握して取組む。 市が設置する場合には必ずしも十分な調査が行われない場合もみられるが、市が投資する場合には十分な事前調査をしなければならない。 市民の幸福実現のためには、行政の責任上その施設がどこまで地域に貢献出来るかを掴んだ上で取組まなければならないと考えている。</p>